公立大学法人前橋工科大学

第２期中期目標期間（令和元年度～令和６年度）における業務実績見込みに関する評価報告書

令和５年１１月

前橋市公立大学法人評価委員会

目次

Ⅰ　評価の考え方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

1　基本的な考え方

2　評価方法

Ⅱ　全体評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　項目別評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

1　大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組
(1) 教育に関する目標を達成するための取組
(2) 研究に関する目標を達成するための取組
(3) 地域貢献に関する目標を達成するための取組
(4) 国際交流に関する目標を達成するための取組
(5) 教員の資質向上に関する目標を達成するための取組

2　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組

3　財務内容の改善に関する目標を達成するための取組

4　自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための取組

5　その他業務運営に関する重要な目標を達成するための取組

用語解説　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

委員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

Ⅰ　評価の考え方

前橋市公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法の規定に基づき、公立大学法人前橋工科大学の中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績について、次の考え方等により評価を実施した。

１　基本的な考え方

(1) 中期目標の達成に向けた、法人の中期計画の実施状況を確認する。

(2) 法人の特筆すべき取組や成果を積極的に評価する。

(3) 評価を通じて、法人の管理運営、大学の教育研究の質的向上を図る。

(4) 法人の管理運営、大学の教育研究などの実績及びそれに対する評価は広く関係者に公表する。

２　評価方法

(1) 評価の進め方

第２期中期目標期間（令和元年度～令和６年度）における業務実績見込みの評価は、法人から提出された「第２期中期目標期間（令和元年度～令和６年度）における業務実績見込みに関する報告書」を踏まえ、その自己点検及び自己評価の内容が適切かどうかという視点で「全体評価」及び「項目別評価」を行う。

(2) 「全体評価」

第２期中期目標期間（令和元年度～令和６年度）に見込まれる法人の業務実績全体について総合的な評価を行う。

(3) 「項目別評価」

中期目標における目標区分ごとに業務の実施状況を確認し、４段階の評価基準により評価を行うとともに、特筆すべき点や今後に期待する点についての講評を付す。

（目標区分）

１　大学の教育研究等の質の向上に関する目標	
(1)教育に関する目標	中期計画 No.　1～No.　9
(2)研究に関する目標	中期計画 No. 10～No. 13
(3)地域貢献に関する目標	中期計画 No. 14～No. 16
(4)国際交流に関する目標	中期計画 No. 17
(5)教員の資質向上に関する目標	中期計画 No. 18～No. 20
２　業務運営の改善及び効率化に関する目標	中期計画 No. 21～No. 25
３　財務内容の改善に関する目標	中期計画 No. 26～No. 30
４　自己点検・評価及び情報公開に関する目標	中期計画 No. 31～No. 33
５　その他業務運営に関する重要な目標	中期計画 No. 34～No. 42

（評価基準）

評点	定義
A	中期目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
B	中期目標の達成に向けて概ね順調な進捗状況にある。
C	中期目標の達成に向けてはやや遅れた進捗状況にある。
D	中期目標の達成に向けては進捗が著しく遅れており、 重大な改善事項がある。

【参考：法人による自己評価の評価基準】

評点	定義
A	中期計画を上回って達成する見込み
B	中期計画を十分に達成する見込み
C	中期計画を十分には達成しない見込み
D	中期計画を達成しない見込み

Ⅱ　全体評価

第２期中期目標期間において、法人は、令和元年度末の新型コロナウイルス感染症の発生以降、難しい運営を余儀なくされてきた。その最中、２学群体制への移行や二つの研究センターの設置といった新たな取組を行っている。全体的な業務実績としては、４年間の年度計画の総括結果として、A評価（年度計画を上回って実施している）が４．９％、B評価（年度計画を計画どおりに実施している）が９２．１％となっている。A評価とB評価の合計が全体の９７％という結果は、４年間の年度計画を順調に推進していることを示している。

令和元年度から令和３年度までに生じたC評価（中期計画を十分には達成しない見込み）とした項目についても、学科再編に伴うカリキュラムの検討や新しい人員計画の策定など、一時的に先送りしたものは、全て令和３年度までに実施済であり、新型コロナウイルス感染症の影響により中止したものは、令和４年度から徐々に取組を開始することで業務実績が改善されつつある。そのため、第２期中期計画は、概ね計画どおりに達成できる目途が立っており、評価できる。一方、中期計画における数値目標のうち、４項目が現時点で目標未達となっている。そのため、当該項目に関しては、数値目標の達成に向けた具体的な取組を今後２年間で確実に実行されていくことを期待する。

「学術団体論文誌等への論文の掲載数」については、令和元年度から令和６年度までの累計で４２０編以上としているが、令和４年度までの４年間で順調に

掲載数を増加させており、これまでの平均７４編を令和６年度までの２年間で積み上げることで数値目標を達成できる状況になっていることは、評価できる。

組織的に教員に対する研究への意識改革に努めたことや、対外的なＰＲ活動を積極的に実施した成果であると思われるが、今後も引き続き研究に対する大学の積極的な取組が行われることを期待する。

「地域貢献に関する事業への学生の参加数」については、目標値２００人以上のところ、令和元年度は２５４人と目標値を超えているが、令和２年度から令和４年度までは、新型コロナウイルス感染症による活動自粛等の影響により、いずれの年度も３０人程度の参加数であり、目標値を大幅に未達の状況となっており、達成が懸念される。ただし、令和５年度からは、新型コロナウイルス感染症による影響から回復していくことが予想される。そのため、目標値達成に向けた対応策を策定する等、取組を強化していく必要があると考える。

「市内・県内企業との共同研究実績件数」については、産官学連携コーディネーター※１を中心に、関係機関や企業との連携を強化したことで、令和４年度では市内・県内企業だけでなく県外企業を含めた共同研究実施件数が前年度と比較して１７件増加したことは評価できる。一方で、数値目標は、市内・県内企業で３０件以上としており、令和４年度においても２４件に留まり達成できていない。しかしながら、令和５年度に公募型共同研究という新たな取組を開始していることから、今後２年間で県内企業へのＰＲ活動をより積極的に行い、目標値が達成できることを期待する。

「外部資金の金額（年額）」については、目標値 100,000 千円以上のところ、令和４年度時点で 95,840 千円と目標未達となっている。一方で、令和４年度は第２期中期計画期間で、共同研究数や科研費補助金採択件数が最も多くなっており、外部資金の獲得額も大きく増加し、令和５年度も共同研究件数を伸ばす取組や大型の科研費の採択を目指す取組にも力を入れている。今後２年間においても、研究を積極的に行っていくという組織的な取組を行うことで、目標値が達成できることを期待する。

結びに、令和５年度は、第２期中期目標期間の５年目にあたり、中期目標の終了２年前となることから、中期計画の達成に向け、着実に取組を進めていく必要がある。

さらに、２学群体制への移行や二つの研究センターの公募型共同研究といった現在進行中の新たな取組に関しても、大学の積極的な取組が行われ、中期目標期間終了時に何らかの目に見える形での成果に繋がっていくことを期待して、全体評価の総括とする。

Ⅲ　項目別評価

1　大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組

(1) 教育に関する目標を達成するための取組

評価委員会評価	法人の自己評価の項目全体では、９項目全てがＢ評価とされた。評価委員会としての評価も、全体的には概ね順調な進捗状況であると評価できる。	B （概ね順調）

評価結果

評価者	全体項目数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	9	0	0%	9	100%	0	0%	0	0%
評価委員会	9	0	0%	9	100%	0	0%	0	0%

■特筆すべき事項及び評価できる事項

（№数字＝第２期中期目標期間（令和元年度～令和６年度）における業務実績見込みに関する報告書における中期計画№）

・大学院への内部進学者数の増加（№5）

隔年現象ではあるが、大学院進学者が増加傾向にあることは喜ばしい。また、令和３年度から令和５年度までの博士前期課程入学定員充足率は100%を超えており、この４年間で大学院進学という意識が学部生の中に一定程度浸透してきている成果だと思われるため、評価できる。

引き続き学部生への動機付けと広報活動による情報発信に努めてほしい。

・分野横断型シンポジウムの学部生聴講（№6）

分野横断型シンポジウムに９２人の学部生の聴講があったことは、学部生に大学院進学への動機付けを行うという点で、期待できると考える。参加した学部生の今後を期待したい。

■今後に期待する事項

下記の事項に関しては、中期計画の達成に向け、さらなる取組を期待したい。

・数学科目の科目構成の変更、理科科目の選択必修化及び両科目の少人数クラス制（№.２）

学生にとって授業の満足度は、公平性の問題と直結するため、学生の満足度を高めることを目標として、検証を継続されたい。

・外国語に関する知識・理解・運用能力（№.3）

令和４年度業務実績に関する報告書に記載されている指標の実績（２１頁）のうち、学修成果アンケートを見ると、「外国語に関する知識・理解・運用能力」の項目は、令和４年度は３４．６％となっており、４年間で横ばいの状況である。令和４年度の学科再編に伴い、英語科目の変更を行い、一定の効果が認められた点は評価できるが、残りの２年間で指標の実績が上昇できるような取組が行われることを期待する。

・３年次のＴＯＥＩＣ－ＩＰテスト初実施（№.3）

ＴＯＥＩＣ－ＩＰテストは、１年次に比べて３年次学生の成績が大きく上昇しているが、受験率が低いので、学年全体がレベルアップしたかどうかの判断は難しいのではないか。高年次の受験率を上げるための工夫を望む。

(2) 研究に関する目標を達成するための取組

評価委員会評価	法人の自己評価の項目全体では、４項目全てがＢ評価とされた。評価委員会としての評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。 特に論文掲載数に関しては、論文投稿数の増加に伴って伸びており、数値目標の達成に向け、現在の状況が継続していくことを期待する。	B （概ね順調）

評価結果

評価者	全体項目数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	4	0	0%	4	100%	0	0%	0	0%
評価委員会	4	0	0%	4	100%	0	0%	0	0%

■特筆すべき事項及び評価できる事項

・共同研究数、論文投稿数及び論文掲載数の増加（№10）

共同研究数は、令和３年度から令和４年度にかけて１７件増加したことは評価できる。

論文投稿数も令和２年度から令和４年度にかけて増加しており、特に令和４年度に５２編増加している。約２割増加したことは評価できる。

論文掲載数については、中期計画における数値目標として、「(1) 学術団体論文誌等への論文掲載数（累計）」があり、令和４年度時点で約７０％の達成状況となっている。残り２年間で１２５編以上の掲載数となる必要があるが、令和３年度から令和４年度にかけて増加傾向にあり、この状況が続けば目標値の達成は可能であるため、自己評価は妥当であると判断する。これらの論文投稿数及び論文掲載数の増加している状況は、組織的に研究に対する教員への意識改革を行ったことも大きく影響していると思われるため、教育・研究の質の向上を継続していくことを期待する。

■今後に期待する事項

下記の事項に関しては、中期計画の達成に向け、さらなる取組を期待したい。

・ソーシャルデザイン研究センター及びバイオサイエンス研究センターの設置（№13）

二つのセンターは、中期計画期間途中での設置であり、本格的な始動はこれからだと思うが、中期目標終了時に何らかの成果が出せるとよい。

(3) 地域貢献に関する目標を達成するための取組

評価委員会評価	法人の自己評価の項目全体では、３項目全てがＢ評価とされた。評価委員会としての評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。 特に地域貢献に関する事業への学生の参加数及び市内・県内企業との共同研究実施件数について、取組を強化することにより、数値目標の達成を期待したい。	B （概ね順調）

評価結果

評価者	全体項目数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	3	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%
評価委員会	3	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%

■今後に期待する事項

下記の事項に関しては、中期計画の達成に向け、さらなる取組を期待したい。

・市内・県内企業との共同研究実施件数（№14）

中期計画における数値目標として、「（３）市内・県内企業との共同研究実施件数」があり、目標値３０件以上のところ、令和４年度時点で２４件と目標未達となっている。一方で、令和４年度は過去３年平均値よりも９件増加しており、共同研究件数が大きく伸びていること、また、令和５年度は公募型共同研究という新たな取組を行うことで、共同研究数を伸ばす取組を実施していることから、数値目標を達成する可能性は高いと思われるため、自己評価結果は妥当なものと判断する。

今後２年間で、県内企業へのPR活動をより積極的に行い、目標値が達成できることを期待する。

・地域貢献に関する事業への学生の参加数（№15、16）

中期計画における数値目標として、「(2) 地域貢献に関する事業への学生の参加数」があり、目標値２００人以上のところ、令和２年度から令和４年度時点で３０人程度と大幅な目標未達となっている。要因としては、令和２年度からの３年間は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けており、活動自体の自粛等があったためとのことで、やむを得ない要因であることは理解する。一方で、令和５年度からは新型コロナウイルス感染症の影響による活動自粛等も社会的に終息し、新型コロナウイルス感染症拡大前の状況に戻ってきていること及び新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度の実績数は２５４人と目標値を上回っていることから、今後の２年間で回復する見込みは期待できると考えるが、目標値達成のための対応策も考える必要がある。

また、現時点で数値目標は未達ではあるが、その中でも、地域貢献事業を実施するという取組は、オンライン開催など、工夫して実施してきていることから、現時点での自己評価結果は妥当であると判断する。

・こども科学教室のオンライン開催（№15）

こども科学教室のオンライン開催について、令和４年度は、令和３年度及び令和２年度の動画を再度使用したためか、視聴回数がかなり少ない。対面開催が望ましいといえるが、公開動画を更新するなど、オンライン開催が有効な面もあると思われるため、検討されたい。

(4) 国際交流に関する目標を達成するための取組

評価委員会評価	法人の自己評価の項目では、Ｂ評価とされた。評価委員会としての評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B （概ね順調）

評価結果

評価者	全体項目数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	1	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%
評価委員会	1	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%

(5) 教員の資質向上に関する目標を達成するための取組

評価委員会評価	法人の自己評価の項目全体では、３項目全てがＢ評価とされた。評価委員会としての評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B （概ね順調）

評価結果

評価者	全体項目数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	3	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%
評価委員会	3	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%

■今後に期待する事項

下記の事項に関しては、中期計画の達成に向け、さらなる取組を期待したい。

・授業改善アンケートの回答率（№18）

授業改善に活用するアンケートの回答率が年々低下しており、回答率が５０％に達していないことは、課題であると考える。

２　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組

評価委員会評価	法人の自己評価の項目全体では、５項目全てがＢ評価とされた。評価委員会としての評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B （概ね順調）

評価結果

評価者	全体項目数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	5	0	0%	5	100%	0	0%	0	0%
評価委員会	5	0	0%	5	100%	0	0%	0	0%

■今後に期待する事項

下記の事項に関しては、中期計画の達成に向け、さらなる取組を期待したい。

・時間外勤務の増加（№22）

令和４年度は、学科再編や中期計画変更に伴う新たな研究センターの設置の準備等の業務増加により、時間外勤務時間が増加しているが、これが常態化しないよう注視していく必要があると考える。

３　財務内容の改善に関する目標を達成するための取組

評価委員会評価	法人の自己評価の項目全体では、５項目全てがＢ評価とされた。評価委員会としての評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。 特に、共同研究数や科学研究費補助金採択件数が伸びており、数値目標の達成を期待したい。	B （概ね順調）

評価結果

評価者	全体項目数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	5	0	0%	5	100%	0	0%	0	0%
評価委員会	5	0	0%	5	100%	0	0%	0	0%

■今後に期待する事項

下記の事項に関しては、中期計画の達成に向け、さらなる取組を期待したい。

・外部資金の実績（№27）

中期計画における数値目標として、「（４）外部資金の金額（年額）」があり、目標値１００，０００千円以上のところ、令和４年度時点で９５，８４０千円と目標未達となっている。一方で、令和４年度は、第２期中期計画期間で、共同研究数や科学研究費補助金採択件数が最も多くなっており、外部資金の獲得額も大きく増加していること、令和５年度も共同研究件数を伸ばす取組や大型の科学研究費の採択を目指す取組に力を入れていることから、現時点での自己評価は妥当であると判断する。今後２年間においても、研究を積極的に行っていくという組織的な取組を行うことで、目標値が達成できることを期待する。

４　自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための取組

評価委員会評価	法人の自己評価の項目全体では、３項目全てがＢ評価とされた。評価委員会としての評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	Ｂ （概ね順調）

評価結果

評価者	全体項目数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	3	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%
評価委員会	3	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%

５　その他業務運営に関する重要な目標を達成するための取組

評価委員会評価	法人の自己評価の項目全体では、９項目全てがＢ評価とされた。評価委員会としての評価も、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	Ｂ （概ね順調）

評価結果

評価者	全体項目数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
法人	9	0	0%	9	100%	0	0%	0	0%
評価委員会	9	0	0%	9	100%	0	0%	0	0%

用語解説

※１：産官学連携コーディネーター

産業界、行政及び地域と前橋工科大学との連携を促進し、前橋工科大学の有する知的資源を効率的に地域に還元することで、地域及び産業の振興に寄与することを目的として委嘱された者

前橋市公立大学法人評価委員会　委員名簿

（五十音順、敬称略）

	氏名	職業、役職等	備考
1	石井（いしい）　祐樹（ゆうき）	メットライフ生命保険株式会社コンサルタント 前橋青年会議所理事長	
2	伊藤（いとう）　亮子（りょうこ）	公認会計士	
3	小島（こじま）　秀薫（ひでふさ）	池下工業株式会社代表取締役会長 前橋商工会議所議員	
4	後藤（ごとう）　さゆり	共愛学園前橋国際大学副学長	副委員長
5	高山（たかやま）　利弘（としひろ）	群馬大学情報学部学部長	
6	花泉（はないずみ）　修（おさむ）	群馬大学大学院副理工学府長	委員長

任期：令和４年４月１日から令和６年３月３１日まで